

# 株式会社LEO

事業名:「共創の森」-Co Creation Space-の開発

Q.実証事業に応募したきっかけを教えてください。

当社のVision「つくることを通じ 前進する」の基、これからの社会で新たな価値をつくる人(もの・サービス、こと・事業)の前進をサポートし、人との繋がりがや、新たな学びの中で新規事業・産業を創造できる共創の場をつくり、社会実証を実施し、新規事業を加速させるための場づくりを目的として応募しました。

Q.三重県で実証して良かった点を教えてください。

東海圏(名古屋市)関西から1~2時間という交通の利便性が高い立地を活かし、都市部のスタートアップ・ベンチャーが不便を感じることなく、社会実証ができる場所であることが挙げられます。菟野ICの効果が高いです。また、三重県庁、地元関係者とのリレーション、外部人材を受け入れる協力的な風土があることが挙げられます。湯の山温泉周辺では、これまでも観光客を受け入れてきた文化があります。

Q.本事業で何を実証したのか教えてください。また、その結果もあわせて教えてください。

11月から本事業を開始し、共創の場の開発が完了しました。2月現在、約20社のスタートアップが共創の場を利用し、うち3社が社会実証の開始準備をしております。4月1日のグランドオープンを目指し、スタートアップ、ベンチャーの予約対応や、近隣施設との連携に取り組んでおります。

- ・共創スペースの開発・実証(Instnthouse)並びに新規事業のプレストやワークショップの実施
- ・共創スペースを活用した循環型栽培システムの試作品開発と実証
- ・スタートアップの電動モビリティの社会実証、試乗体験
- ・近隣施設へのテイクアウトの導入提案支援(近隣飲食店とのテイクアウトメニュー開発相談中)

Q.今後、この実証事業を三重県または全国でどのように展開していくのか教えてください。

4月からのグランドオープンに向け、場づくり、提供コンテンツ、サービスの標準化を目指します。現在の利用企業(スタートアップ・ベンチャー)に加え、大企業新規事業者も利用できるよう事業拡大を図ります。東海圏、関西圏をターゲットとした三重県の事例を、今後は関東圏のスタートアップ、ベンチャーに向けて神奈川県での展開を検討しております。



<三重県担当職員からひと言>

三重県がめざすスタートアップエコシステムの形成につながる取組だと感じており、さまざまな起業家が共創の森に集まることにより、新たなイノベーションが創出されると思います。菟野町だけではなく、今後の三重県内でのさらなる展開に期待しています！  
(創業支援・ICT推進課 矢形さん)

<実証事業の様子>

